

H29

アクションプラン全体計画（平成28～32年度）

推進項目	91 その他					重要度	B	
番号・取組事業名	91002	学習サポート推進事業	作成日	H29.4.1	更新日	H30.3.31		
担当部署	270900	学校教育部 教職員課	責任者	菅原 英一	担当者	入澤 直樹		
取組年度	H28	～	H32					
効果	その他改善							
最終目標	本事業は、サポート教員の配置により、児童生徒に少人数による学習指導を行う人的支援事業であり、学校教育に寄せられる学力の向上やきめ細かい児童生徒指導への期待に応える重要な事業と考える。加配教員の配置状況や各校の多人数学級の状態を考えあわせ、効果的なサポート教員配置を進めていく。							
年度	区分	取組内容・目標						
平成28年度	進んでいる	各校のニーズや現状を把握し、サポート教員配置の見直しを図った。また、サポート教員の知識・技能向上に向けた研修の充実を図った。						
平成29年度	実施	サポート教員の指導効果を高めるための研修を行う。また、幅広いニーズに応じた配置を可能とするための人材確保に努める。						
平成30年度	実施	サポート教員の指導効果を高めるための研修を行う。また、幅広いニーズに応じた配置を可能とするための人材確保に努める。						
平成31年度	実施	サポート教員の指導効果を高めるための研修を行う。また、幅広いニーズに応じた配置を可能とするための人材確保に努める。						
平成32年度	完了	人的支援が必要な全ての小中学校への配置を図り、少人数教育で個に応じたきめ細かな指導を行う。						
成果指標	指標名	柏市学力学習状況調査(4段階評価の平均値)					単位	点
	年度	平成27年度 当初予算(基準)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	最終値
	当初計画値		小3. 41中3. 39	小3. 41中3. 39	小3. 41中3. 39	小3. 41中3. 39	小3. 41中3. 39	小3. 41中3. 39
	実績値	小3. 41中3. 39	小3. 44中3. 43	小3. 45 中3. 48				0
効果額	歳入増加	当初計画額						0
		変更計画額						0
		実績額						0
	歳出削減	当初計画額						0
		変更計画額						0
		実績額						0
	計	当初計画額	0	0	0	0	0	0
		変更計画額	0	0	0	0	0	0
		実績額	0	0	0	0	0	0
見込まれる その他効果 (金額以外)		少人数学級や 少人数授業で 指導を受ける 児童生徒の割 合の増加	少人数学級や 少人数授業で 指導を受ける 児童生徒の割 合の増加	少人数学級や 少人数授業で 指導を受ける 児童生徒の割 合の増加	少人数学級や 少人数授業で 指導を受ける 児童生徒の割 合の増加	少人数学級や 少人数授業で 指導を受ける 児童生徒の割 合の増加		

H29

アクションプラン(平成29年度)

推進項目	91 その他				重要度	B			
番号・取組事業名	91002	学習サポート推進事業	作成日	H29.4.1	更新日	H30.3.31			
担当部署	270900	学校教育部 教職員課	責任者	菅原 英一	担当者	入澤 直樹			
	区分	取組内容・目標							
平成29年度	実施	サポート教員の指導効果を高めるための研修を行う。また、幅広いニーズに応じた配置を可能とするための人材確保に努める。							
取組項目				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月		
1	サポート教員研修会			○		○			
2	平成30年度サポート教員募集				○				
3	平成30年度サポート教員採用選考					○			
4	サポート教員配置要望の回収及び平成30年度配置校選定						○		
5									
6									
7									
8									
9									
10									
進捗									
	上半期	進捗状況	計画どおり	コメント	サポート教員研修は、3回計画したうち2回を計画通り実施した。残り1回は11月1日計画通り実施の予定である。平成30年度の募集については、市のホームページで案内し、事業の周知を図った。また、近隣の大学への広報は9月上旬に行った。サポート教員の配置要望、人事評価については報告を求めている。				
進捗・実績									
		成果指標名	柏市学力学習状況調査(4段階評価の平均値)	計画値	単位	点	実績値	単位	点
					小3. 41	中3. 39		小3. 45	中3. 48
	年度末	達成状況【成果】	達成	コメント	サポート教員の配置数が昨年度と比較して増加したため、少人数指導を受けている児童・生徒の割合は増加した。中学校では英語や数学の少人数指導を担当できる人材が不足しているが、生徒指導体制の強化を図り、サポート教員の活用方法を工夫し、きめ細かい指導を重視して、少人数指導を行っている。各校のニーズに応じた人材を派遣するための人材確保に努めた。				
		進捗状況【活動】	進んでいる						
		計画変更(次年度以後)	取組内容	無	コメント	サポート教員に対する学校のニーズは非常に高く、児童生徒にとてもきめ細かい指導ができるため、今後もサポート教員を各校に配置し、教育効果を高めていきたい。			
	計画値	無							
評価	評価者	内田 守	※重要度A事業は副市長、重要度B事業は部局長を評価者とする						
	総合評価(A・B・C)	B	コメント 指示事項	本事業は、サポート教員の配置により、児童生徒へのきめ細かい指導が各学校で行われているため、教育委員会としても重要な事業の一つと考える。今後も継続実施することで、さらなる教育効果を高めることを期待する。					
	方向性	継続実施							

アクションプラン全体計画（平成28～32年度）

推進項目	91 その他				重要度	B	
番号・取組事業名	91003	学校図書館活用推進事業	作成日	H29.4.1	更新日	H30.3.31	
担当部署	270300	学校教育部 指導課	責任者	杉本 秀彰	担当者	高橋 静	
取組年度	H28	～	H32				
効果	その他改善						
最終目標	児童生徒の積極的な学校図書館活用を図ることを通して、「学ぶ意欲と学ぶ習慣」及び「学び続ける力」を育む授業に改善するため、学校図書館指導員を増員し、図書館活用の専門的な資質向上を図り、柏市内小中学校の学校図書館環境の整備及び活用の維持・向上を図っていく。						
年度	区分	取組内容・目標					
平成28年度	計画どおり	司書教諭と図書館指導員の連携を強化し、学校図書館を活用した授業の改善、読書活動の推進を行い、市内各校においてビブリオバトルと読書会の開催を推進した。土小学校が子供の読書活動優秀実践校文部科学大臣賞受賞					
平成29年度	実施	「柏市調べる学習コンクール」を開催し、授業における調べ学習を推進することを通して、学校図書館活用を目指す。					
平成30年度	実施	司書教諭と図書館指導員が連携して、中学校区単位で「育てたい子供像」を共有し、ビブリオバトル・読書会を取り入れた授業に改善することを通して、学校図書館活用を目指す。					
平成31年度	実施	司書教諭と図書館指導員が連携して、中学校区単位で「育てたい子供像」を共有し、各校における年間計画の改善を通して、学校図書館活用の推進を目指す。					
平成32年度	完了	司書教諭と図書館指導員が連携して、中学校区単位で「育てたい子供像」を共有し、「調べる」「読む」をバランスよく年間計画に織り込み、学校図書館活用の推進を目指す。					
成果指標	指標名	連絡便における市立図書館及び各学校間の流通冊数				単位	冊
	年度	平成27年度 当初予算(基準)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	当初計画値		小6,000・中4,000	小6,300・中4,300	小6,500・中4,500	小6,800・中4,800	小7,000・中5,000
	実績値	小5,717・中3,638	小5,774・中3,269	小5,439・中3,377			
効果額	歳入増加	当初計画額					
		変更計画額					
		実績額					
	歳出削減	当初計画額					
		変更計画額					
		実績額					
	計	当初計画額		0	0	0	0
		変更計画額	0	0	0	0	0
		実績額		0	0	0	0
	見込まれる その他効果 (金額以外)		学校図書館指導員が1校に1人配置されることにより、課題解決型の授業が充実する。	学校図書館指導員が1校に1人、5日間配置されることにより、調べ学習が推進する。	学校図書館指導員が1校に1人、5日間配置されることにより、教員の教材研究の質が高まる。	学校図書館指導員が1校に1人、5日間配置されることにより、図書館活用における各校の課題の発見と解決にコミットできる。	学校図書館指導員が1校に1人、5日間配置されることにより、学校図書館活用が日常化される。

H29

アクションプラン(平成29年度)

推進項目	91 その他				重要度	B			
番号・取組事業名	91003	学校図書館活用推進事業	作成日	H29.4.1	更新日	H30.3.31			
担当部署	270300	学校教育部 指導課	責任者	杉本 秀彰	担当者	高橋 静			
	区分	取組内容・目標							
平成29年度	実施	「柏市調べる学習コンクール」を開催し、授業における調べ学習を推進することを通して、学校図書館活用を目指す。							
取組項目				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月		
1	学校図書館指導員研修会の実施			○	○	○	○		
2	小中学校司書教諭研修会の実施			○	○		○		
3	子ども司書養成講座の実施			○	○	○	○		
4	市内小中学校学校図書館流通システムの運用			○	○	○	○		
5	柏市学校図書館活用事例集の作成						○		
6	柏市調べる学習コンクールの実施				○	○			
7									
8									
9									
10									
進捗									
上半期	進捗状況	進んでいる	コメント	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館指導員研修，第6回まで完了。 司書教諭研修，第2回まで完了。 子ども司書講座289名受講。 柏市図書館を使った調べる学習コンクール，市内各小中学校より提出済み。 					
進捗・実績									
年度末	成果指標名	連絡便における市立図書館及び各学校間の流通冊数		計画値	単位	冊	実績値	単位	冊
					小6,300	中4,300		小5,439	中3,377
	達成状況【成果】	一部達成	コメント	柏市図書館を使った調べる学習コンクールを創設したところ，子どもたちが夏休みの特別開館を利用するなどし，学校図書館の活用が進んだ。その成果として，学校図書館及び公立図書館を活用した作品が全国大会で優良賞，奨励賞，佳作に入選した。					
	進捗状況【活動】	計画どおり							
計画変更(次年度以後)	取組内容	無	コメント						
	計画値	無							
評価	評価者	内田 守	※重要度A事業は副市長，重要度B事業は部局長を評価者とする						
	総合評価(A・B・C)	B	コメント 指示事項	初参加の図書館を使った調べる学習コンクール全国大会で，柏市の作品が複数入選したことは，今までの図書館活用推進事業の成果と捉え評価している。引き続き学習情報センターとしての活用を推進し，授業改善に繋げることを期待している。					
	方向性	継続実施							

アクションプラン全体計画（平成28～32年度）

推進項目	91 その他				重要度	B			
番号・取組事業名	91004	学校配当予算における予算編成方法の見直し		作成日	H29.4.1		更新日	H30.3.31	
担当部署	270100 学校教育課 学校財務室		責任者	原 竜太郎		担当者	学校財務担当		
取組年度	H29	～	H32						
効果	その他改善								
最終目標	<p>現在、学校財務室から予算の一部を各学校へ配当し、学校長権限で予算を執行している。この学校配当予算は、消耗品や備品の購入、修繕等に使用しており、学校財務室において各校の予算配当基準額を毎年見直し、実態に合わせた予算配分を目指している。</p> <p>さらに平成29年度からの取組みとして、インセンティブ予算制度を導入し、各校の財務事務が適切に行われているかをポイント制で評価し、次年度予算編成に活用していく。各校のインセンティブポイントの向上を目指し、財務事務の適正化や配当予算の有効活用を図っていく。</p>								
年度	区分	取組内容・目標							
平成28年度									
平成29年度	実施	財務事務の適正な管理に関する取組について、評価指標及び各指標の評価ポイントを設定し、各小中学校の取組状況の年間データの蓄積を行う。							
平成30年度	実施	財務事務の適正な管理に関する取組について、各小中学校ごとにマイナス評価となった項目について助言・指導を行いながら取組状況の年間データの蓄積を行う。前年度の結果を、平成31年度予算編成に活用する。							
平成31年度	実施	財務事務の適正な管理に関する取組について、各小中学校ごとにマイナス評価となった項目について助言・指導を行いながら取組状況の年間データの蓄積を行う。前年度の結果を、平成32年度予算編成に活用する。							
平成32年度	完了	財務事務の適正な管理に関する取組について、各小中学校ごとにマイナス評価となった項目について助言・指導を行いながら取組状況の年間データの蓄積を行う。前年度の結果を、平成33年度予算編成に活用する。							
成果指標	指標名	インセンティブポイント平均値(満点に対する獲得ポイントの率)					単位	%	
	年度	平成27年度 当初予算(基準)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	最終値	
	当初計画値			60	70	80	90	90	
	実績値			36					
効果額	歳入増加	当初計画額							0
		変更計画額							0
		実績額							0
	歳出削減	当初計画額							0
		変更計画額							0
		実績額							0
	計	当初計画額			0	0	0	0	0
		変更計画額			0	0	0	0	0
		実績額			0	0	0	0	0
見込まれる その他効果 (金額以外)			①学校の実態に合わせた効率的な予算配分を実現すること。②学校の経営力の向上を図ること。③学校財務事務の適正な水準への引上げ、執行の効率化を図ること。	①学校の実態に合わせた効率的な予算配分を実現すること。②学校の経営力の向上を図ること。③学校財務事務の適正な水準への引上げ、執行の効率化を図ること。	①学校の実態に合わせた効率的な予算配分を実現すること。②学校の経営力の向上を図ること。③学校財務事務の適正な水準への引上げ、執行の効率化を図ること。	①学校の実態に合わせた効率的な予算配分を実現すること。②学校の経営力の向上を図ること。③学校財務事務の適正な水準への引上げ、執行の効率化を図ること。			

H29

アクションプラン(平成29年度)

推進項目	91 その他				重要度	B			
番号・取組事業名	91004	学校配当予算における予算編成方法の見直し	作成日	H29.4.1	更新日	H30.3.31			
担当部署	270100	学校教育部 学校財務室	責任者	原 竜太郎	担当者	学校財務担当			
	区分	取組内容・目標							
平成29年度	実施	財務事務の適正な管理に関する取組について、評価指標及び各指標の評価ポイントを設定し、各小中学校の取組状況の年間データの蓄積を行う。							
取組項目					4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
1	学校財務事務の適正な運営と学校配当予算の有効活用への取組				○	○	○	○	
2	取組状況に応じた学校への個別指導・助言							○	
3	前年度決算を参考に、各学校の新年度予算配当基準額を決定					○			
4	各学校に、新年度の予算要望書の作成を依頼					○			
5	各学校から提出された予算要望書の内容確認					○			
6	各学校の新年度予算要望についてヒアリング					○			
7	学校財務室による学校予算要望の査定・調整						○		
8	財政課へ予算見積書の提出						○		
9	新年度予算内示後、各学校へ配当予算の内示							○	
10									
進捗									
上半期	進捗状況	計画どおり	コメント	財務事務の適正な管理に関する取組について7項目の評価ポイントを設定し、機を見て各小中学校に情報提供しながらデータの蓄積を行っている。					
進捗・実績									
年度末	成果指標名	インセンティブポイント平均値(満点に対する獲得ポイントの率)		計画値	単位	%	実績値	単位	%
					60		36		
	達成状況【成果】	一部達成	コメント	財務事務の適正な管理に関する取組について設定した7項目の評価ポイントについて、各小中学校への情報提供を行いながら、一定量のデータを蓄積することができた。今後、ポイントのとりまとめを行い、平成31年度予算に反映していく。					
	進捗状況【活動】	計画どおり							
計画変更(次年度以後)	取組内容	無	コメント						
	計画値	無							
評価	評価者	山口 秀明	※重要度A事業は副市長、重要度B事業は部局長を評価者とする						
	総合評価(A・B・C)	B	コメント 指示事項	今年度、新たな取組としてインセンティブ予算制度を導入し、学校の経営努力や財務の適正化を可視化し評価した。今後は、指導助言を適切に行い、効果的な取り組みとなるよう方向性の修正を行っていきたい。					
	方向性	継続実施							